

様式第2（第9条関係）

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和8年 5月22日

犬 山 市 議 会

議 長 大 澤 秀 教 様

議員名 鈴木 伸太郎

下記のとおり、研修の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和8年 5月 18日(月) ～ 5月19日(火)
(2) 場 所	全国市町村国際文化研修所
(3) 形 態	会派 () : その他 (鈴木のみ)
(4) 内 容	研修「自治体決算の基本と実践～行政評価を活用した決算審査」 報告書別紙
(5) 成果・提言	報告書別紙



出張報告 令和8年5月18日（月）～5月19日（火）

研修 「自治体決算の基本と実践～行政評価を活用した決算審査」

全国市町村国際文化研修所

以前から、決算に関する研修を何度か受講してきた。自治体の決算は、一度では覚えられないくらい専門的な知識を必要とするため、行政経験が乏しい民間出身の私としては、何度も繰り返し受講することで、少しずつ覚え前進してきたという自負がある。今回もそのような感覚で受講した。

期待していたのは、財政状況資料集等、決算に関わる帳票類の読み解き方だったが、残念ながら今回は、決算のそもそも、財政健全化法に則った自治体決算の健全性の考え方、藤枝市を事例とした、決算→予算のPDCAサイクルの取り組みがメインだった。どちらかという、1期目2期目議員向けの内容だったが、復習の中にも、過去に学んで忘れていたこと、新たに視点からの気づき等は多々あった。

○自治体決算の意義と審査のポイント 武庫川女子大学 金崎師

- ・民間の決算は、利益の追求の結果報告に対し、自治体の決算は、住民福祉の増進の結果報告。民間・・・複式簿記、発生主義会計の決算に対し、自治体・・・単式簿記、現金主義会計の決算という違い、それぞれの決算書類の違いなどを改めて確認。
- ・自治体決算は、その時に決定（議決）した者の責任を問われることは少ない。
- ・昨今、財政非常事態宣言をする自治体が多発、これは、財政がひっ迫しているという意味ではなく、財政構造、支出構造が変化しているというサイン。
- ・不能欠損は、収入未済を残しておくことでコストがかかるために行う側面がある。
- ・下水道、市町村では継続は無理、県に移管すべき。
- ・繰越のうち、事故繰越は要チェック。
- ・財政診断の際、財務4票を活用すべき。
- ・経常収支比率、将来の数値予測が大切。
- ・令和6年度決算の概況（全国）

【歳入増要因】

- ・企業収益の増加に伴い、地方税が伸びている。
- ・普通交付税の増等による地方交付税の増加
- ・定額減税の実施による地方特例交付金の増加

【歳入減要因】

- ・新型コロナ対応地方創生臨時交付金等の減少

【歳出増要因】

- ・地方公務員の給与改定や定年延長による人件費の増加
- ・認定こども園等を対象とした人件費単価改定や児童手当制度等の拡充による扶助費の

増加。

・決算認定時のチェックポイント（西宮市を事例に）

- ・決算全体
- ・数年にわたり中期スパンで
- ・一般財源の増減
- ・税収の動向
- ・目的別の増減要因
- ・義務的経費の状況
- ・特別会計の決算状況
- ・基金残高
- ・市債の状況
- ・投資的事業の状況
- ・財政指標の動向

○自治体決算の基本と実践 京都産業大学 小西師

行政評価、決算を、議員としてどう視るか、その考え方を法律の視点から検討した。

その後、グループに分かれ、藤枝市を事例とした決算から予算への PDCA サイクルの回し方について意見交換、後に各グループによる発表。

- ・議員により、各事業については様々な観点がある。
必要性・優先性・有効性・効率性・公平性・合規性・総合性・・・
- ・「新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）」創設、KPI 必要。
- ・「地域未来交付金」創設、犬山にも話は来ているが、解りにくく使いづらい。
- ・自治体の行政評価、以前と違い、現在の自治省は後ろ向き。
- ・行政評価の市民参加。← 浦安市
- ・議会基本条例で、決算を予算に反映するよう求めるよう規定。← 富士市
- ・議会基本条例で、事務事業を、決算により監視、評価するよう規定。← 武蔵野市
- ・藤枝市の事例
 - ・7月までに各委員会で事業評価の対象事業を抽出
 - ・9月定例議会で、事業を評価。
 - ・10月に市長へ提言。
 - ・予算委員会で状況確認。
 - ・6月定例議会で事業の課題、問題点を抽出。
 - ・11月定例議会で、上半期における取組状況を聞き取り。

○犬山市への提言

今でも「決算は終わったこと」的な空気感を感じるが、決算の重要性は、PDCA サイクルを本当に回していくという考えがあれば、当然重要なチェック事項である。

以前、決算資料の誤りを数回指摘したが、これも、職員の決算に対する意識の醸成、公金を扱う職員の意識の醸成には、とても重要なことだったと自負している。

幸い、現在の犬山市は、決算から予算に向けての提言を行ってはいるが、ここ数年はそのインパクトが薄れてきているようにも感じる。

今回の研修では、基本を学ぶと同時に、新たな交付金の存在、全国各自治体の先進的な取り組みも学んだ。

気持ちを新たに、決算審査に挑み、議会も職員も緊張感ある環境と関係性を築きたい。

以上